

2013 年度 幼稚園保育教育要領指導および推進計画

カリキュラム指導スーパーバイザー 指導マニュアル（＊部分抜粋）

2014 年 9 月 22 日

日本語訳：王 林鋒

日本語チェック：天野美和子
(2016 年 3 月)

目次

一、カリキュラム指導スーパーバイザー事前確認事項（＊）

二、カリキュラム指導スーパーバイザーの専門倫理（＊）

三、カリキュラム指導における問題解決方法と心得（＊）

四、スーパーバイザー知能、研修および支援

五、カリキュラム指導の視察

六、カリキュラム指導成果評価

七、参考資料

八、保育員保育実施基準

九、幼稚園保育実施基準の説明

十、基礎評価指標

一、カリキュラム指導スーパーバイザー事前確認事項

カリキュラム指導スーパーバイザーは、受け入れ幼児園に招聘される前に、以下の項目を自問しておく必要がある。

カリキュラムや幼児園保育教育要領の理念と精神を理解したか

幼児園保育教育要領の重要性を認め、要領が保育の質を向上させることを多くの保育員に知ってほしいか

幼児園の特性を生かし幼児園保育教育要領の実施への支援ができるか、要領に基づいた実践に徹するように保育員を導くことができるか

カリキュラム指導に関連する会議や活動に積極的に参加し、カリキュラム指導力を向上させたいか

受け入れ幼児園は、スーパーバイザーを招く前に、以下の項目を確認しておく必要がある。

幼児園の現行のカリキュラムや保育状況、カリキュラムの方向性、計画、保育の方式、クラス環境および保育員の知識と能力はどうであるか

過去に用いた指導計画の状況はどうであったか

今回、幼児園の指導計画にスーパーバイザーが参加することへの目標や期待は何か

二、カリキュラム指導スーパーバイザーの専門倫理

立場：

1. スーパーバイザーは、受け入れ幼児園の幼児教育の専門性に準じて質の高い保育を提供することを支援する。
2. スーパーバイザーは、幼児園保育教育要領を認め、保育員がその理念や方針を理解することをサポートする。
3. スーパーバイザーは各園、各保育員の価値観や個性を尊重する。

相互関係：

1. スーパーバイザーは保育員と信頼関係を築き、良いコミュニケーションを図る。
2. スーパーバイザーは保育員の個々の能力や心身状態に応じて、それぞれの専門性を向上させるための計画を作る。
3. スーパーバイザーは指導中、あたたかい態度を示し、保育員が自信を持てるように、また継続的に動機づけが保てるように支援する。

守秘：

1. スーパーバイザーは受け入れ幼児園の指導状況に関わる個人情報を漏洩してはならない。
2. スーパーバイザーは止むを得ず受け入れ幼児園の指導資料を利用する際、必ず幼児園から許可を得なければならない。

成長：

1. スーパーバイザーはカリキュラム指導に関連する会議や活動に積極的に参加し、自身の専門知識や能力を高める。
2. スーパーバイザーは関連する政策に疑問を持った場合、適切な手順や方法を経て意見を述べる必要がある。

三、カリキュラム指導における問題解決方法と心得

(一) 関係作り

スーパーバイザーは受け入れ幼稚園と良好な関係を築き、お互いに理解し合い、円滑なコミュニケーションができる環境を整える。それは、今後の指導の重要な基盤となる。

互いに 知り合う

- ・目的：関係作り
- ・可能な解決方法：新学期の前にできるだけ連絡を取り合う
- ・自己紹介をし、幼稚園に自分の専門を理解させる
- ・自分自身のカリキュラムとの関わりや指導経験を紹介する
- ・幼稚園を支援する態度を明確に示す

幼稚園 を知る

- ・目的：幼稚園の歴史、人員、組織、環境を理解する
- ・可能な解決方法：幼稚園園長・カリキュラムリーダーと会談する
- ・幼稚園の歴史・現状・指導の各年記録について知る
- ・幼稚園と保護者、地域の関係について理解する
- ・保育員の学歴背景や職務経験、カリキュラムの研修経験について知る
- ・幼稚園の人事配置を知る

保育員の 不安を 受けとめる

- ・目的：信頼関係を作り、共通目標を立てる
- ・可能な解決方法：幼稚園園長・カリキュラムリーダーと会談する
- ・幼稚園がカリキュラム指導を受ける動機や理由を知る
- ・幼稚園の希望やニーズを知る
- ・幼稚園がカリキュラム指導計画についての不安を理解する
- ・共同で討論し指導計画を修正していく
- ・十分なコミュニケーションを図る
- ・保育員のニーズや希望を知る
- ・保育員が指導を受ける際の不安や疑問を受けとめる
- ・スーパーバイザーとしての役割や指導の重点内容を説明する
- ・安心させる
- ・スーパーバイザーが幼稚園を支援し、共に問題解決に望む立場であることを強調する
- ・保育員のニーズに応じて、指導計画を調整する

(二) 幼稚園の現状とニーズを評定する

スーパーバイザーは、まず幼稚園の現状を把握し、今後の指導計画の方向性を見据えて指導計画の出発点となる土台を評定する。

カリキュラム リーダー

- ・幼稚園にカリキュラムリーダーがいるか？
- ・カリキュラムリーダーの背景、資質や経験はどうか？
- ・カリキュラムリーダーと保育員の関係はどうか？
- ・カリキュラムリーダーの幼稚園保育教育要領の理解はどうか？

保育員

- ・保育員の背景、資質や経験はどうか？
- ・各保育員のクラス運営能力、幼稚園保育教育要領の理解および実施の意欲や能力、自己編成過程の能力はどうか？
- ・保育員の希望
- ・保育員の同僚性
- ・幼稚園の雰囲気、幼稚園の組織およびクラスの人事配置

カリキュラム

- ・幼稚園の資料を集める（HP、掲示板、行事一覧、クラス記録、各年の指導評価資料）
- ・クラス観察（幼稚園の全体環境、各クラスの配置、各クラスの保育状況）
- ・幼稚園の設備（図書設備、教材教具、クラス経費）

園と保護者

- ・保護者の特徴や社会的背景や社会的地位
- ・保護者が幼稚園に期待すること
- ・幼稚園と保護者のコミュニケーション
- ・幼稚園と保護者との信頼関係
- ・幼稚園と地域との信頼関係

その他の 資源

- ・保護者からの資源
- ・地域に関わる資源
- ・ボランティアの公募
- ・その他

(三) カリキュラム指導の重要点とその方法

カリキュラム指導は幼児教育の基本理念に基づく。良好なクラスの運営とカリキュラムの方向性が安定していることが、幼稚園保育教育要領に則した実践を行うための重要な基礎となる。その上で、カリキュラム指導スーパーバイザーは保育員への負担をかけ過ぎずに、カリキュラムの実施を促す。

カリキュラム指導スーパーバイザーは幼稚園の現状を十分に理解した上で、保育員のもつ経験を考慮し、今後の指導方法やプロセスを慎重に判断する。ここでは、スーパーバイザーの参考になるためのカリキュラム指導の重点と問題解決方法について述べる。

カリキュラム指導スーパーバイザーは幼稚園の現状を評価した後、保育員に幼稚園カリキュラム開発の流れから自己編成の過程を考えさせる。各学期の始まる前に、幼稚園保育教育要領や幼児の経験、能力、ニーズに応じて、カリキュラムを立案し、行事を決め、各計画を作成する。学期中、カリキュラムの実施と共に、保育の評定や学習結果評定を行う。学期の終わりに、保育の総評定を行う。総評定によって、実施したカリキュラムに欠点や問題点があるかどうかを確認することができる。それにより、幼児の学習状況と自分のカリキュラムやその実践を評価することができる。その結果をふまえて後期のカリキュラムを調整する。

全体カリキュラムの開発の過程を経た後、具体的なカリキュラムのデザインは、幼稚園保育教育要領に沿って行う。幼稚園のカリキュラムは入園時から始まる。まず、行事スケジュール表に基づき、日常の活動を選び、それぞれの活動に対応するカリキュラムの目標や学習指標を設定する。そして、幼稚園のカリキュラムアプローチに応じて、テーマや单元ごとに計画を作る。また、各学習コーナーを決めてから計画を立てる。

カリキュラム
指導計画の
確認・調整

- ・目的：幼稚園の現状と期待、スーパーバイザーが幼稚園に対する評定を総合的に分析し、一年間のカリキュラム指導計画を立てる。その計画は、特定のテーマに焦点を当て、系統立てて展開する。
- ・可能な解決方法：
 - ・幼稚園の現状を評定する
 - ・幼稚園園長・カリキュラムリーダーとの協議
 - ・保育員のニーズに臨機応変に対応する

幼稚園に
関する記録を
まとめる

- ・目的：幼稚園に関わる各種の記録をまとめ、保育員の負担を軽減する
- ・可能な解決方法：保育員と協議する
 - ・既存の記録や書類のそれぞれの目的や機能を明らかにする
 - ・記録の仕方を統一する
 - ・記録内容と幼稚園保育教育要領やカリキュラムとを照合し共通項目をまとめる

幼稚園の
カリキュラム
の方向性を
確認する

- ・目的：幼稚園のカリキュラムの方向性を確認し、カリキュラムを実施するために基礎を築く
- ・可能な解決方法：
 - ・クラス観察：各クラスの運営、学習状況、幼児の作品と表現
 - ・保育員にカリキュラムの方向性を明確させる

日常の活動と
幼稚園保育
教育要領
の関連付け

- ・目的：保育者に日常の活動の目的を理解させ、幼稚園保育教育要領に各領域の目標や学習指標との関連付けをさせる
- ・可能な解決方法：
 - ・保育員に各クラスの日常の活動の重点や要求を書いてもらう。その過程で現れた困難を乗り越えるために支援する
 - ・クラスを観察し、活動の進行を見守る。保育員の導き方、実践の仕方をカリキュラムの目標と学習指標に対応させる

各学習コーナー
と幼児園保育教育要領との
つながり

- ・保育員に各学習コーナーが設置される目的や役割を理解させる
- ・可能な解決方法
 - ・保育員に各クラスの各学習コーナーの計画を考えさせる（立案目的、素材、引導、幼児園保育教育要領の各領域目標と学習指標との対応）
 - ・スーパーバイザーは、各クラスの幼児の各学習コーナーの学習を観察し、活動の進行を見守る。保育員の導き方、実践の仕方をカリキュラムの目標と学習指標に対応させる

テーマと整合性
のとれたカリキュラムデザイン

- ・目的：テーマと整合性のとれたカリキュラムデザインの方法やステップを保育員に理解させる
- ・可能な解決方法：
 - ・保育員の保育記録を確認する（テーマの設定は適切か、幼児の考え方を前提にしているか、**bottom-up**の方式か。活動と学習指標との関連、活動間の連続性、領域の均衡）
 - ・他の資源の運用（保育情報HPで掲載されているデザイン道具、整合性のとれたカリキュラムに関連する出版物、既存教材を再編成）

全園活動と幼児園保育教育要領
とのつながり

- ・目的：保育員に全園活動の目的ややり方を振り返り考えさせ、過去の既存カリキュラムとの関連を考えさせる
- ・可能な解決方法：
 - ・保育員に全園活動の計画を書かせる（全園活動の趣旨、保育員の働きかけ、各領域課程目標と学習指標の連携）
 - ・全園活動の進行を見守る。保育員の導き方、実践の仕方をカリキュラムの目標と学習指標に対応させる

（四）受け入れ幼児園が学習指標を理解し利用するよう支援する

幼児園保育教育要領において、各領域のそれぞれの課程目標と学習指標が明示されている。この部分は、保育員が時間をかけて理解すべきところである。保育員が各領域の課程目標や学習指標を参照して、カリキュラムデザインの方角性を決める。従って、適切なカリキュラムデザインができるように、保育員は各領域の構造だけではなく、各領域の課程目標、学習指標の意義も理解する必要がある。

指導中、スーパーバイザーは、保育員がどれぐらい各領域の課程目標と学習指標を理解したか、どのように実践しているのかを把握しなければならない。保育員が疑問や困惑に直面した場合、スーパーバイザーは事例を通して問題点を提示し、説明する。

保育員が
どのように
学習指標を
使うかを知る

- ・スーパーバイザーは保育員に課程目標と学習指標に沿って活動計画を書かせ、アドバイスを与える
- ・保育員に保育活動を撮影させ、対応した課程目標や学習指標を説明させる
- ・スーパーバイザーはクラスを観察し、保育員の働きかけを分析し、課程目標や学習指標との対応を確認する

保育員の
学習指標への
理解を高める

- ・全園あるいは学年読書会やカリキュラム開発会議を開く、保育員が自主的に議論する雰囲気を作る
- ・保育員に学習指標の意義を討論させ、可能な活動例を挙げさせる
- ・保育員が自ら実践を撮影し、気になる問題点や疑問が共同討論の話題として提起する
- ・スーパーバイザーによる支援
 - ・クラスの活動を観察し、活動の進行や実施状況を了解する
 - ・保育員の活動計画書に対してアドバイスを提供する
 - ・観察した事例を協議会で共有する
- ・関連概念を明確にさせる：学習指標、評価指標、教学目标

保育員が
学習指標の
使用を
支援する

- ・学習指標の使用原則を強調する
- ・保育員がデザインした活動を事例として、対応可能な課程目標や学習指標を説明する
- ・保育員が作成した活動計画に助言する
- ・保育員に既存の活動計画を再編成させ、問題点を提示する
- ・書面資料を用いて使用状況を確認する
 - ・一つの単元やテーマが終わった後、保育員に単元学習評価表を記入させ、活動のバランスを確認させる
- ・保育員に学習指標の反省を書かせる

(五) 他の要素

1. 公私立幼稚園

公立幼稚園の現状

- ・多くの保育員は幼稚園教諭であり、幼児教育の基本精神や理念を備え、自己編成過程能力を持つ
- ・ベテランの保育員が多く、動機づけが変わらず、改革に抵抗感が強い、保育の自主性が強い
- ・クラスに各学習コーナーが設置されたが機能していない、一斉保育が多い

可能な解決方法

- ・まず、保育員に幼稚園保育教育要領のメリットを見つけさせる
 - ・一つの領域から始める
 - ・既存の課程と幼稚園保育教育要領との繋がり
- ・カリキュラムの取り組み方が決まっており、各学習コーナーが設置されており、保育員の主導が少ない
- ・よく使われる市販参考書の適切性を確認

私立幼稚園の現状

- ・保育員の教育養成背景が異なる、格差がある
 - ・幼児教育専門性に格差がある
 - ・人事異動が頻繁である
 - ・書類作成の能力が不足している
- ・外国語課程や稽古事に関わる課程が設置され、多数の市販参考書が使われる
- ・保育空間が狭く、各学習コーナーの設置がなく、教具・教材が不十分である

可能な解決方法

- ・園に合う適切な保育方向へ導く
 - ・時間表を調整する、外部招聘教員を減らす、市販参考書の使用を抑える
 - ・全体的に幼稚園の空間の使い方を再考する、各学習コーナーを設置する、幼児が自主的に探究するような機会を作る
- ・日常の活動の計画から幼稚園保育教育要領への適応を模索する
- ・幼稚園保育教育要領を熟読し、その理念と精神を理解する、順次に各領域を熟知する

2. 大・小規模幼稚園

大型幼稚園の現状

- ・同時に多種類のクラスが設置され、英語クラス、モンテッソーリクラスがある
- ・幼児年齢の幅が広い、乳児、小、中、大クラスが混在している
- ・クラス数が多く、保育員も多い。同時に全員会議に集まりにくい
- ・行政階級が複雑で情報伝達しにくい
- ・行政管理職の園長や主任はクラスを受け持っていない

可能な解決方法

- ・それぞれのクラスが指導目標や、やり方が異なる
 - ・クラスや保育員のニーズで決まる
 - ・カリキュラムアプローチで決まる
 - ・幼児の年齢で決まる
- ・学年、月、時間帯を分けて協議会を開く
- ・全園での指導が可能な方法
 - ・毎月異なる学年を焦点として協議会を開く、他の学年が代表を選び、協議会に行かせる
 - ・毎月異なる学年の映像を焦点として協議会を開く、全園で協議する

小型幼稚園の現状

- ・異なる年齢の混合クラスが多い
- ・一つのクラスに一名の保育員が付く
- ・クラスや保育員が少ない、お互いに有意義な協議をする機会が少ない

可能な解決方法

- ・保育員が異なる年齢の幼児をどのようにケアするのかを支援する
- ・他の園との交流を考える
 - ・同じスーパーバイザーが指導する園間の交流
 - ・同じ地域の園間の交流

3. 異なるカリキュラムアプローチを持つ幼児園

各学習コーナー+テーマ・単元

- ・ 日常の活動と幼児園保育教育要領との関連
- ・ 各学習コーナーの設置と素材
- ・ 各学習コーナーの観察と指導
- ・ 各学習コーナーの企画と各領域の課程目標・学習指標の対応
- ・ 整合性のとれたカリキュラムアプローチ
- ・ 各学習コーナーとテーマ・単元の繋がり

テーマ・単元+各学習コーナー

- ・ 日常の活動と幼児園保育教育要領との関連
- ・ 各学習コーナーの企画と各領域の課程目標・学習指標の対応
- ・ 整合性のとれたカリキュラムアプローチ
- ・ 一斉議論と質問方式
- ・ 各学習コーナーの設置と企画
- ・ 各学習コーナーとテーマ・単元の繋がり

モンテッソーリ

- ・ 日常の活動と幼児園保育教育要領との関連
- ・ 五大教育と幼児園保育教育要領との関連
- ・ 文化課程の計画
- ・ 幼児の工作計量

シュタイナー教育

- ・ 日常の活動と幼児園保育教育要領との関連
- ・ シュタイナー教育の各項目活動の教育的意義を分析する
- ・ シュタイナー教育の各項目活動と幼児園保育教育要領との関連

カリキュラムアプローチが不明な園

- ・ 単元学習の基本に戻す
- ・ 各学習コーナーを設置し、日常の課程に加える
- ・ 日常活動と幼児園保育教育要領の関連を考慮し、時間表を調整する
- ・ 整合性のとれたカリキュラムデザイン
- ・ 活動と幼児園保育教育要領各領域の学習指標との対応
- ・ 協議会と質疑時間
- ・ テーマ・単元と各学習コーナーの結合